

「かわごえ環境フォーラム」の詳報

本誌3月号に続き、2月19日(土)に東洋大学川越キャンパス 学生ホール食堂棟において開催された「かわごえ環境フォーラム」について報告します。今回は詳報として、第1部「かわごえ環境活動報告会」の各発表の概要と第2部「すみたい街 かわごえカフェ」の話し合いの様子をお伝えします。

第1部「かわごえ環境活動報告会」の詳報

10:00 から 12:00 まで、9 件の環境活動報告がありました。

発表順序・発表題目・発表者

1. 『自然と農業に触れるエコ体験—ふくはら子どもエコクラブ活動報告 2010—』 宮岡アイ子 [ふくはら子どもエコクラブ]
2. 『雑木林の観察を通して林の再生に取り組んで』 過昌司
3. 『田んぼ発 いきいき地域づくり —みなみかぜ いきいき田んぼの会のアルバム—』 後藤ゆかり [みなみかぜ]
4. 『温室効果ガス削減 25% (90 年比)、あなたの家庭は?』松岡壽賀子 [ネットワーク"かけはし"川越]
5. 『地域活動を始めて』 三村正巳・小林久美 [小畔川の自然を考える会]
6. 『EM による環境浄化活動』 上山巧・三重野義郎 [EM クリーンクラブ]
7. 『エコマネー使用期間拡大が環境イベントにもたらす影響・効果に関する研究—アースデイ・イン川越 立門前における社会実験—』 角田拓也・中口毅博 [芝浦工業大学]
8. 『まちづくりにおける情報システムの活用方法に関する研究』 中川邦昭・小瀬博之 [東洋大学]
9. 『東洋大学川越キャンパスにおける電力使用量の推移及び環境配慮行動の周知に関する研究』 木村偉至・小瀬博之 [東洋大学]

自然と向き合った3件の報告 ・宮岡アイ子/ふくはら子どもエコクラブの「自然と農業に触れるエコ体験—ふくはら子どもエコクラブ活動報告—」では、瞳を輝かして発表してくれた5人の子どもの顔が印象的でした。

・過昌司さんの「雑木林の観察を通して林の再生に取り組んで」は、6年前から福原の雑木林を地主さんの了解を得て植物や昆虫や野鳥の観察結果について発表がありました。自然保全の制度化を強調されていました。

・後藤ゆかりさんの「田んぼ発 いきいき地域づ

くり—みなみかぜ いきいき田んぼの会のアルバム—」は、この活動を通して子どもからお年寄りまでが安心して集える地域づくりについて紹介されました。

・松岡壽賀子さんの「温室効果ガス削減 25%、あなたの家庭は?」は、エコゲーム・10年間の苦労話を通して発表されました。継続していくには、家族の絆と、ゲーム感覚で楽しく取り組むのが秘訣とのことでした。

・三村正巳さんの「地域活動を始めて」は、水辺再生 100 プランをきっかけにイベントを通して地域の交流を拡大していきたいとのことでした。

・上山巧さんの「EM による環境浄化活動」では、始めて8年になる仙波河岸史跡公園・河岸跡池の水質浄化活動の報告があり、新河岸川から荒川までの河川の浄化に想いをもち続けているとのことでした。

学校関係・芝浦工業大学・角田拓也さんの「エコマネー使用期間拡大が環境イベントにもたらす影響・効果に関する研究—アースデイ・イン川越 立門前における社会実験—」では、アンケートの分析結果、エコマネーを通して環境に関心を持つとともに商店街の活性化につながるよう報告がありました。

・東洋大学・中川邦昭さんの「まちづくりにおける情報システムの活用方法に関する研究」では、ICT (情報通信技術) を用いた手法が紹介されました。

・東洋大学・木村偉至さんの「東洋大学川越キャンパスにおける電力使用量の推移及び環境配慮行動の周知に関する研究」では、環境に対する意識や知識を高めるためには、学生委員会を立ち上げるなど積極的に環境に対する取り組みが必要であるとの研究発表がありました。

参加されなかった方、詳しくは、「かわごえ環境活動報告集」に目を通してください (報告集は環境政策課にて配布されています)。

(宮澤宏次)

第2部「すみたい街 かわごえカフェ」

初めての試みである“かわごえカフェ”に100人余りの人が参加しました。かわごえカフェのテーマは、「すみたい街について」。その話し合いのために、副題として、「環境」「福祉」「観光」「教育」「安全」というサブテーマを設け、それぞれのサブテーマに絞ったすみたい街について話し合いをしました。

くじで引いたサブテーマのテーブルに4人ずつ座り、第1、第2、第3ラウンドと25分～30分話し合いをしました。そして最後は全体セッションとして全員で話し合った内容を共有しました。このかわごえカフェによって、どのような気づきをもたらされたか、みなさんに提出していただいた“発見シート”を元に報告します。

1. かわごえカフェの間

各ラウンドで話し合いをしてもらうために次の間を設定しました。

第1ラウンド	14:25～14:55 (くじで引いた席に着席)
問1:	テーマ(環境・福祉・観光・教育・安全)ごとの、すみたいと思う街はどんなイメージですか？
第2ラウンド	15:00～15:30 (席替えで新しいメンバーで話し合い)
問2:	テーマごとの、すみたいと思う街はどんなイメージですか？
第3ラウンド	15:35～16:00 (最初の席のメンバーで話し合い)
問3:	イメージ通りの街をつくるために、あなたは何をしたいですか？

2. 全体セッション

かわごえカフェで対話したことで気づいたことを挙手にて発表してもらいました。

最初に発表してくれたのは、「教育」テーブルの東洋大学の学生さん。持続可能な街のためにどんな教育をすべきかについての意見は、「記憶を次世代に繋ぐこと」。そのために、もっと親が人として成長してほしい。そのために、例えば、川越の農家では滞在型のエコツアーを企画し、親子で参加してもらう。農家ではエコツアーがビジネスになるし、親子で参加することで親も成長するのではないかとの提案をいただきました。

た。

次に発表してくれたのは「福祉」テーブルの東洋大学の学生さん。持続可能な街のためにどんな福祉であるべきかについての意見は、「人との繋がりが大切。心がケアされないとよくなる」ということでした。

「安全」テーブルからは、「他責にしないで、自らが実行し、まず第一歩を踏み出すことが大切」であるという意見がでました。自らが声をかけ、近所つきあいを広げていくことが安全の見守りになるという考えでした。

「環境」テーブルからは、持続可能な街のために環境をどうすべきであるかという議論では、「CO₂を減らそう、省エネしようという話にはならず、結局は生活が大切であり、生活難民をなくし孤立しないしくみが必要」という意見でした。

「観光」テーブルからは、市民自体がこの川越をどれだけ知っているのか。川越を知っているようで市民はよく知らないのではないか。まずは街を歩いて川越を知ろうという意見でした。

それぞれのテーマから気づいたことを発表してもらいましたが、各テーマの根底には「人と人との繋がりが」が共通のキーワードのように感じます。福祉で言われた「人と人との繋がりが」。これは「安全」にもいえます。“声をかける”、“近所付き合いをする”、そうした人との繋がりが街の見守りにもなり、安全になっていきます。そして、「環境」でも人と人が繋がることが孤立を回避でき、生活難民を防ぎます。人と人が繋がれば、川越の街を歩き、街を知りそれを広げていくことができます。そしてそれは、次世代へとつなぐ教育にもつながっていきます。

初めての試みとして開催したかわごえカフェ。環境、福祉、観光、教育、安全と5つのサブテーマにわけ、持続可能なすみたい街について話し合ってもらいました。難しい内容ではあったものの、みなさんが話し合っただけで浮かび上がったキーワードは「人と人との繋がりが」であり「絆」

ではないでしょうか？そこをしっかりと見据えた取り組みをすることが、多くの課題の解決にも繋がるのかもしれませんが。そのためには、人と人を繋げるコーディネーターの育成や繋がる場が必要なかもしれません（繋がる場がかわごえ環境ネットになるようにしたいと思いました）。そんなことを感じたかわごえカフェでした。

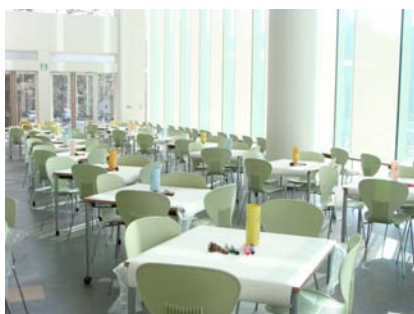
づくりが必要。そのためには、新しいコミュニケーションの形が求められる→その意味でかわごえカフェは素晴らしい!
・福祉、環境、教育、安全、観光・・・いろいろな人のつながりが大切
・人と人が繋がっていけるたまり場（カフェ）が大切だと思います
・街づくりをするためには、まず自分の街を好きになることが重要
・価値観がなくなっている事が様々な問題が発生。子供の教育から価値観をうえつけよう。

3. みなさんからいただいた発見シートの意見

・安全について話し合いをしましたが、つまるところ人との繋がりの良いところは、地域の安全に繋がるという結論でした。また、「あいさつ」が人との繋がりの基本という意見があり、まずはご近所の人との挨拶から大切にしたいねと話しました。
・街づくりは人づくりだね。コミュニケーションの大切さ。親から「ありがとう」ということで子供も感謝の表現としてこの言葉を使うようになる。
・何事もまず自ら行動すること、一步踏み出すこと、他責にしないことが重要である。
・観光について話したが、客を迎える側にたって一人ひとりができることは、川越を愛し、川越を知り、川越を歩くとともに温かく観光客を迎える心遣いを持ち、何回も訪れたい街にしていきたい
・環境について話したが、環境は生活であり、生活の中に5つのテーマが存在することが今日の結論かもしれない
・気軽に近所の人に声をかけられるような社会が良い
・気持ち人が人を動かす。記憶を次世代に伝える。相手を教育することは自分を「教育」することになる
・人の考えは千差万別であるが、求める理想の形は似通っていると感じた
・昔の環境を取り戻すのではなく、新しい時代の環境

なお、みなさまからいただいた発見シートの内容は、かわごえ環境ネットのホームページですべて閲覧できるようにしています。(http://kawagoekankyo.net/news/にアクセスして「かわごえカフェ」で検索してください。)

初めて行った「かわごえカフェ」に対して、参加者の多くの方から参加してよかった、いろいろな人と会話し、多様な考えがあることに気づいた、またぜひ開催してほしいといった好意的な感想をいただきました。ありがとうございました。また、かわごえカフェでは、みなさんにリラックスして対話できるようにお茶やお菓子の準備を生活クラブ生協川越まちづくり専門部会メンバーに手伝っていただきました。お茶菓子の一部（饅頭、シュークリーム）も生活クラブ生協より提供されたものです。この場をかりてお礼申し上げます。(飯島希)



テーブルレイアウト



進行役の飯島希さん



会場全体の様子



話し合いの様子